



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報は厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1
電話：
担当者の所属・氏名リハビリテーション科 田中啓太

【研究責任者】

聖路加国際病院 リハビリテーション科 田中啓太

造血幹細胞移植を受けた方を対象とした

身体機能に関する研究

1.研究の対象

2021年4月～2024年3月の間に造血幹細胞移植を受けた方

2.研究の目的・方法

造血幹細胞移植の対象となる白血病や悪性リンパ腫など、血液のがんと呼ばれる疾患の主要な症状としては貧血や倦怠感等があり、治療開始前から活動量が低下していることが多いです。また入院治療中は、抗がん剤の使用や造血幹細胞移植を行うことで、入院期間の長期化や、一時的な免疫機能の低下により、感染予防を目的とした活動制限が設けられます。そのため、身体機能や日常生活動作の低下を予防するためのリハビリテーション介入が必要とされています。移植患者さんの多くは、実際に身体機能の低下をきたしており、過去の医学的研究においても、移植予定患者さんの握力や下肢の筋力、歩行能力が、健常者よりも21-23%低いと報告されています。また、その他の研究でも移植10日前と比較して、移植後30日後は筋力やバランス機能、持久力に低下を認めたと述べられており、移植後も身体機能低下があることが分かっています。今回の研究では、当院で造血幹細胞移植を受けられた方の身体機能の変化について調査することで、今後の適切なリハビリテーションの提供につなげたいと考えています。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、カルテに記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人研究機関の長による実施許可後～2025年3月31日までの予定です。該当データの利用開始は、2024年5月27日を予定しております。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

対象者背景：ID、性別、年齢、身長、体重、合併症、既往歴、治療歴等
血液検査結果

身体機能項目：リハビリテーション実施時の下肢筋力、握力、歩行能力

リハビリテーション実施歴：実施時間、実施日数等